

☆ 川柳って何？

川柳のルーツは江戸時代の『誹風柳多瑠（はいふうやなぎだる）』にあります。

この『誹風柳多瑠』は1765年（明和2年）に初編が発行されました。それまでは前句付けと呼ばれ、前句（七・七）付け句（五・七・五）を考えて付ける形でしたが、付け句（五・七・五）だけでわかる句を選び出し一冊としたのです。この付け句を選んだ選者の名前が柄井川柳（からいせんりゅう）。ここからこの文芸が川柳と呼ばれるようになったのです。そして川柳は、江戸時代の町人文化の台等と共に、庶民の楽しみとして定着して行きます。この柄井川柳が確立した川柳を、私たちは伝統川柳・古川柳と呼んでいます。

しかし、この時代の川柳（前句付）は興行元が句を広く公募し、応募する人たちから入花料（一句～六文が多い）を集め、それを賞品や賞金に充てる興行でもありました。

やがて前句付興行は、時とともに変質していきます。

点者（句を選ぶ宗匠）の質も落ち、駄洒落や言葉遊びの奇をてらうようになります。

後に狂句百年と言われる川柳狂句へ墮落してしまうのです。狂句風潮に、待ったをかけたのが明治末期に登場した阪井久良伎（さかいくらき）と井上剣花坊（いのうえけんかぼう）の二人です。

明治から大正にかけて、狂句に墮ちた川柳を立て直そうとする運動は、盛んになり鶴彬（つるあきら）、田中五呂八などの川柳作家が活躍、特に大正の後半から鶴彬が死亡する昭和13年までを「新興川柳時代」とよんでいます。そして戦後今日の「現代川柳」の基礎を築いたと言われる六人の作家が現れます。川柳を志す人は、こぞってこの六大家の主宰する柳社の門人になるか全国の支部結社に参集したのです。

われは一匹狼なれば瘦身なり	川上三太郎
俺に似よ俺に似るなと子を思い	麻生路郎
蛇穴を出づるに似たるわが思い	村田周魚
何事も無く日が暮れて胡瓜もみ	前田雀郎
恋せよと薄桃いろの花がさく	岸本水府
大笑いした夜やっぱり一人寝る	根元紋太

☆ 俳句と川柳の違い

俳句も川柳も、同じ五・七・五の短詩文芸、ルーツは平安時代に形式として完成した連歌にあります。やがて室町時代・連歌に俳諧（はいかい）（滑稽）の要素を盛り込んだ俳諧連歌が誕生、庶民の座の文芸として広く普及して行きます、この俳諧連歌の最初の句（発句）だけを独立させたのが俳句です。

(発句)は、座の正客が詠むとされ、当季の季語をもち、格調高く、切字（(修辭的に言い切る語)の入った長句の五・七・五です。それに短句の七・七がつながり、次にまた長句の五・七・五、再び七・七、そして五・七・五・・・と(挙句)まで、作者が交替で句を重ねていくのが連歌です。(前句)の七・七にひびくような機知とユーモアで五・七・五の長句をつける、この七・七と五・七・五の二句だけを独立させたのが(前句付)と呼ばれる文芸となり、やがて川柳になって行きました。

(発句)が持っている決まり事、季語や切字を大切に受け継いでいるのが俳句。季語や切字などに縛られることなく、俳諧連歌の(前句付)が持つ、機知とユーモアの精神を受け継いだのが川柳なのです。

☆ 川柳は人間のクローズアップ

大まかな分け方をすれば絵画に例えるなら俳句は風景画、川柳は人物画。しかも川柳の人物画はクローズアップです。

人間の喜怒哀楽を感情いっぱい五・七・五にするのが川柳なのです。

☆ 川柳いろいろ

川柳には三つの要素があります。

1. 穿ち(うがち) 事や人情の核心に、巧みにふれること。
2. 軽み 軽やかで、気がきいていること。
3. 笑い うれしさ・おかしさ・てれくささ・馬鹿にした気持ち・究極のかなしみ

この三要素を多くのジャンルに広げました。まずは、時事川柳です このジャンルは新聞や週刊誌の公募川柳としておなじみです。

政治や社会現象に五・七・五で痛烈な批判を浴びせたり、ユーモアたっぷりに皮肉ります。そして、サラリーマン川柳やOL川柳 その他にも、介護川柳、CM川柳、○○川柳と冠の付いた川柳が多くの人に詠まれてます。

☆ 現代川柳とは

現代川柳の違いとは他人を川柳の素材として捉えるか、自分を捉えるかなのです。

伝統川柳や時事川柳の笑いは、自分自身を笑う笑いなのです。自分の詠む川柳の主役は、政治や社会現象でなく、あくまでも自分自身なのです。新しい自分との出会いであり、新しい自分の発見なのです。